

過程を実際に体験してもらいながら真珠のを知ることができる。

○珠入れ作業

核（かく）をアコヤ貝の中へ入れる作業

○珠出し作業

アコヤ貝の中から真珠を取り出す作業

○真珠セミナー

質の良い真珠と悪い真珠の見分け方など

⑨ネックレス「遊子」（真珠加工会社などと提携し産地ブランド化を企画）

宇和島市の遊子漁協は地区全体で越し物真珠の生産に取り組んでおり、県外の真珠加工会社や宝飾メーカーと協力し、遊子産真珠だけで作ったネックレス「遊子」の販売を2004年に始めた。これは製品ブランドではなく、原産地証明付きの真珠ネックレスを売り出すもので、全国初の試みで売れ行きは好調だったが、近年は不景気の影響であまり売れなくなっているとのこと。

○遊子産真珠とは、真珠を「越し物」にすることで、①

巻き ②テリ ③キメの細かさ にこだわっている

○小さい核（貝は体内に異物が入るのだから小さな核を使った方が負担は軽い）を使って、巻きの厚い高品質な珠を作る。

⑩「パールビズ」（真珠のアクセサリ着用運動）

平成19年から宇和島市は、地元の真珠をPRしようと職員が率先して真珠製品を身に着け、自らが“広告媒体”となる「パールビズ」運動を推進している。1年目は市職員、2年目は市民、3年目は県民に広げていこうという計画でスタートした。パールビズとはクールビズをもじった言葉だが、真珠アクセサリはカジュアルさも演出するとあって男女を問わず職員らに浸透しており、市民や観光客にも「清新なイメージ」と好評である。これを企画したのは全日空から派遣されている地域再生マネージャーの小林詳子さんである。



パールビズの商品 (1)



パールビズの商品 (2)

4. おわりに

真珠養殖は1890年（明治23年）に、御木本幸吉が神明浦と相島（現在のミキモト真珠島）で始め、1893年（明治26年）に世界で初めて養殖（半円真珠）に成功して、1905年（明治38年）に真円真珠を完成させた。それから100年以上が経つが、愛媛県では1912年（明治末年）に南宇和郡内（現在の愛南町）で始まった。

その愛媛の真珠は1994年度がピークで、その後は生産量・生産額ともに大きく落ち込み、今以上に落ち込めば真珠養殖業は危機的状況になり、当県も含めた日本の真珠養殖業が廃れてしまう恐れがある。

この状況を打開し、今よりも良い珠を作るため生産者自らがすること、漁協・漁連がすること、全国連がすることを整理し、また加工販売業者は輸出中心の真珠について、今以上に輸出の強化を図ることと国内での販売